

村井信仁新社長就任後も混乱するスガノ農機

これはスガノ農機(株)の混乱に関する報告である。

今年2月4日、同社より次のようなFAXが関係者に送られた。

スガノ農機の4代目社長である菅野充八氏をパワハラ、セクハラを理由として代表取締役を解任し、同社専務取締役であった大森聡氏を代表取締役として選任する。

大森新社長は全国土を考える会(前田喜芳会長)の役員に招集をかけ、菅野氏の解任と新体制で全国土を考える会と活動したいと呼びかけた(3月4日)。しかし、大森氏が「失われた12年」という表現を含めて語った全国土を考える会に関する認識に会員が反発し、会の途中で席を立つ人が続出した。さらに、

江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。まったく管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。

3月28日、北海道土を考える会が臨時総会を開催し、以後、同会がスガノ農機とは一線を画して活動する旨の決議をした。北海道の臨時総会に参加した全国の役員たちもその決議を各地に持ち帰って協議を進めるとともに、全国土を考える会は4月12日に都内で臨時役員会を開催し、全国会も北海道土を考える会と共同歩調を取ることに決めた。以

上の内容は既報の通りである。その後、全国土を考える会は会費を管理する口座の通帳および印鑑の返還を求めた。しかし、それはいまだに実行されていない。

スガノ農機の株式の51%を所有する菅野充八氏が旭川地方裁判所の承認を受けて6月12日に臨時株主総会を開催し、大森氏ら前役員を解任するとともに、新たに村井信仁氏を代表取締役に選出し、菅野充八氏、菅野鋭三氏を取締役として再任した。それにもかかわらず、新社長に選任された村井氏は同社に就任できていない。同社の労働組合を牛耳る東京管理職ユニオンに指導された組合員がピケを張り、新社長が出社できないという混乱状態が続いている。

村井氏は同社の機械開発や会社運営にも様々な助言をし、土を考える会に対しても顧問的・指導的役割を果たしてきた人物である。同氏を新社長に選んだのは土を考える会のメンバーの意向を反映したものであった。菅野充八氏に反発する同社社員も、村井氏への共感は強いと考えたからである。この人事の背景にあるのは、菅野充八氏をはじめとした創業家の経営に対する復権を求めるた

めのものでなく、同社が持つべき農業改革への理念と、土を考える会との正しい関係性を取り戻すことを狙いとしている。村井新社長は、外部から新しい経営陣を招き入れることも表明している。

しかし、大森氏ら旧経営陣は、菅野充八氏が臨時株主総会開催の案内を出した後に社員株主の株を社員に分配し、それらの株主に総会開催の案内が届いていないとして総会の無効を主張するとともに、総会の場に労働組合員が押しかけて会を混乱させた。

さらに、役員解任を予測した大森氏は自ら役員を退任し、従業員の間場となって同社からの追放を逃れようとしている。大森氏およびそれと共同行動を取る東京管理職ユニオンに指導された同社労働組合は何を考えているのだろうか。これでは、同社の理念や土を考える会の理念の復活はもとより、同社そのものが潰れてしまうとは考ええないのだろうか。さもなければ、彼らの本音はスガノ農機の再建などではなく、もっと別の要求をもって現在の活動をしているのだろうか。村井新社長は創業家の復権ではなく、外部から新社長を招聘することを含めて新たな提案を期待している。社員諸氏の冷静な反応に期待したい。